

令和元年度 事業報告書

社会福祉法人つつみ会
つくばきらり保育園

目 次

1. 事業内容	1～8
(1) 保育全般について	1
(2) 各クラスの保育状況について	1～3
(3) 特別事業について	3
(4) 入園・特別事業利用状況について	4～5
(5) 給食・食育について	5
(6) 保健衛生について	5～6
(7) 行事について	6～7
(8) 保護者対応について	7
(9) 事故防止と安全対策について	7
(10) 関係機関・地域との連携交流について	7～8
2. 職員の状況	8～9
(1) 職員配置について	8
(2) 各会議の実施について	8
(3) 職員研修について	8～9
3. 苦情対応について	9

1. 事業内容

(1) 保育全般について

今年度は、開園2年目を迎え4月は89名、5月から90名でスタートした。

市内の待機児童は年々増加し保育園の入園も困難となっている。昨年度は正職保育士が、年度途中で1名退職、産休育休で1名休みに入った為、早番・遅番のシフトが出来る保育士が不足し、態勢を回すのが困難になった。一時保育・病後児保育に関しては、8時00分から17時00分の中での保育の為、行う事が出来た。

後半になり、事故が3件、誤飲・誤食が4件あり、その都度、会議を行い保育の在り方、声の掛け合いなどを職員全体で確認した。また、アレルギーについてはマニュアルを見直し食物アレルギーの無い子どもと変わらない安全・安心な保育園での生活を送れ、保護者にも安心してもらえるように努めた。

2月頃から新型コロナウイルス感染症が社会問題となり、保育環境の整備、保護者へ注意喚起卒園式の縮小等の対応に追われた。

職員研修では、キャリアアップ研修や外部研修にも積極的に参加し保育の質の向上に努めた。

保育活動では、天気の良い日は園庭に出て体を動かしたり、ルールのある遊びを多く取り入れ近隣集落にも散歩に行き、探索活動を楽しんだ。

新型コロナウイルス発生後は、拡大防止のため子ども達の手洗い指導を強化し、環境改善の為にこまめに清掃・消毒・換気・午睡の時には、園児の布団を離すよう配慮を行った。また、職員同士も濃厚接触にならないよう休憩室を3ヶ所設け、給食も園児と同じ部屋では、取らないよう配慮した。

室内遊びでは、各クラス年齢に合った玩具で遊んだり遊戯室で異年齢でリズム遊びを行い楽しんだ。3・4・5歳児は専属講師による英語レッスン、ダンス教室を定期的に行い、専門的な知識の習得を行った。5歳児は、ドリルを購入してもらい、それに基づき就学に向けた学習や、園長による読み聞かせの時間を設けた。

(2) 各クラスの保育状況について

① 0歳児クラス

クラスで一番月齢の低い11月生まれの男児を含め、全員歩行が完了した状態で進級することが出来た。次の活動を事前に伝える事で、その活動に期待を持ち進んで玩具の片付けをしたり、気持ちの切り替えをする事が出来るようになった。また、保育士の簡単な言葉や生活の流れを理解して口拭きタオルで自分の口を拭いたり、下駄箱から自分の靴を取り出して履こうとする姿が見られるようになった。他児への興味から玩具の取り合いや噛み付き等が多く見られる時期もあったが、保育者が仲立ちをしながら気持ちを代弁することで、「かして」「いいよ」と身振りや言葉で伝える事が出来るようになった。食事面では、月齢の低い4名はスプーンで食材をすくう事が出来ず保育者の食事介助が必要である。年が明けた頃になると好き嫌いが出てきた為、家庭と連携を取りながら一口は口に出来るよう声掛けと援助を行った。

② 1歳児クラス

全員の歩行が完了していない状態からのスタートだったが、走り回ったりジャンプしたり出来るようになった。初めての事にも積極的にチャレンジし鉄棒にぶら下がったりフラフープで電車ごっこをしたり輪の中をくぐったりと、出来る事が増えた。ぬいぐるみにミルクをあげたりおんぶをしたり寝かしつけをしたり、おままごとをしたりと遊びの幅も広がった。

高月齢児を中心に友達と関わりながら遊ぶ姿も見られるようになった。同じ玩具で遊んでいる子と関わりながら遊んだり、互いに声を掛け合って一緒に遊んだりするようになった。玩具を巡っ

でのトラブルが多い為、円滑にやり取りが出来るよう、その都度貸し借りの仕方を教えていった。

靴や帽子、靴下、上着の着脱の仕方、片付け方伝え出来る事は自分でするよう促していった。すぐに自分のマークを覚えて片付けられるようになった子が多かった。また、友達のマークも覚えて場所を伝える姿も見られた。

オムツが濡れる頻度が低い子を中心にトイレトレーニングも開始した。1名が完了しオムツ処理代を返金した。便座に座る事を嫌がらない子がほとんどで、便座での排尿も成功する事があり積極的にトイレに行く子が多く、トイレトレーニングは順調であった。

③ 2歳児クラス

体を動かす事が好きなクラスだったので戸外遊びを積極的に取り入れた。一人遊びをしている子が多かったが、保育士も積極的に遊びに参加し遊びを展開した事で、複数の友達とごっこ遊びや見立て遊びか出来るようになった。進級当初は、噛み付きや引っ掻きなど手が出てしまう姿が見られ、友達とのトラブルも多かったが、保育士が子どもの気持ちを代弁、仲立ち、見守りなど場面に合った関わりをすると言葉で自分の気持ちを伝えられるようになった。少しずつ椅子に座ってられる時間も長くなってきたので定期的に制作を取り入れると、楽しんで取り組んでいた。

排泄面では、15人中13人は一日パンツで過ごすことが出来た。初めは尿意に気付かず失敗してしまうことも多かったが、1人ひとりの尿間隔を把握し、こまめにトイレを促すと少しずつ自らトイレに行き、排泄に成功し、失敗せずに一日を過ごせるようになった。

④ 3歳児クラス

以上児クラスとなり生活の流れは大きく変わったものの、一日の流れはなるべく変えずに過ごしていき、子どもたちの意見を取り入れた活動を実現させることで意欲的に活動に参加する姿が多かった。生活面では、身の回りの事を子どもたちが自分で行っていけるよう方法を伝える等して援助の仕方を工夫していき、子ども達も自分で出来たことを自信に繋げ、進んで行う姿が多かった。また、主に生活面・食事面での正しいマナーを知らせていった事で、子ども達同士で声を掛け合ったり、手伝いをするなどして助け合う姿も見られるようになった。子ども同士の関わりでは、トラブル時に自分の気持ちを言葉で伝えられずに保育士の仲立ちを必要とする場面もあったが、お互いの気持ちを代弁しつつ自分で伝えられるよう声を掛けていった事で、徐々に相手の気持ちを受け入れようとする姿が見られた。食事面では畑への活動や食育(クッキング)を通してより食への興味が増し、全体的に完食、おかわり率が上がった。

⑤ 4歳児クラス

4月に1名、5月に1名、計2名の新入園児が加わるが、クラス全体は落ち着いており、遊びや活動を通して様々な友達と関われるよう、きっかけ作りを行いながら様子を見守った。

基本的な生活習慣が身に付き、自分で身の回りの事に取り組めるよう活動の流れや準備の仕方を丁寧に知らせながら過ごした。行事や日々の活動への意欲が高い子が多く、子ども達の姿を十分に褒め、自信に繋がれるようにした。また無理のないよう一人ひとりのペースに合わせて楽しく取り組めるよう言葉かけを意識しながら過ごした。

遊びや活動を通して友達との関わりが増え遊びの中では簡単なルールのある遊びから友達と一緒にルールや約束事を決めて遊びが展開できるようになった。言葉数も増え、自分の気持ちや思いを言葉で相手に伝えられるようになったことで、トラブルは少なくなり友達や保育士との会話を楽しめるようになった。

食事面では、1人ひとりが食べられる量を調節しながら様子を見守り、完食への達成感を味わえるようにした。また、食育活動を通して食への興味が増し、全体的に食べる量も増えた。

⑥ 5歳児クラス

身の回りの事が自分でしっかりと出来るようになり、朝の支度活動の準備等出来るだけ園児同士で行うようにした。個々の思いが強く衝突する場面も多かったが、少しずつ相手の思いを汲み取りながら話し合い、みんなで1つの目標や目的を作り上げる姿も見られるようになった。

畑の活動では去年の経験を活かし、異年齢児を引っ張り優しく手伝ったり、率先して作業をする姿があり食事でも良く食べ、お皿に盛りつけする当番も配分を考えながら楽しみに活動することが出来た。

就学に向けてワークや鉛筆を使う活動を取り入れ、楽しみに達成感を味わいながら一定時間集中し、手を挙げて発表することで自信を持たせることに努めた。

園長による読み聞かせや紙芝居を楽しみにし、長編の物語にも集中することができるようになった。発達遅滞の園児は、自分のペースでしか行動できないことが多かったが、保育士や友達との関係を通して、次第に行事への参加が出来るようになった。卒園式では証書授与も出来成長が感じられた。

⑦ 学童保育

児童の雰囲気は、年間を通して、学校・学年・男女問わず全体的に仲が良く、楽しく過ごせている様子で、良かったと感じている。

今年度は、途中で入所して来た子ども達が5名いた。どの児童も徐々に慣れ、遊びを通して自分を出せるようになり、年度末には、誰とでも楽しく活発に遊んでいる姿が見られる。又、出来るだけ時間を作って、読み聞かせや朗読を行ったが物語が進むにつれて集中して聞く姿が見られた。しかし、言葉遣いに関しては、時々、乱暴な言葉遣いや冷たい言葉を発している児童が見られ、課題の大きさを感じた。

今年度から、長期休みや一日保育の際に、給食提供を実施した。保護者の評判も良く給食提供を理由に転入してきた児童もいた。

(3) 特別事業について

① 乳児保育事業について

職員に看護師を配置し低月齢の生後3ヶ月児から15名の乳児を保育した。

② 延長保育事業について

午前7時から午前7時30分迄と午後6時30分から午後8時迄の延長保育を行った。1日の平均利用者数は早朝が1.0名、夕方が1.5名の利用であった。

③ 一時保育事業について

当園に在園していない子どもを一時的にお預りし、延べ419名の利用があった。利用目的は、就労、保護者のリフレッシュのため等であった。

④ 病後児保育について

疾病回復期で集団行動が困難な状況の子どもを、専用の保育室で看護師により個別保育を行った。外部の利用は無く、在園児19名の利用であった。主に喘息・感冒症状・マイコプラズマ肺炎・血小板減少症の子ども利用があった。

(4) 入園・特別事業利用状況

① 入園状況

定員 90 名

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員数	15	15	15	15	15	15	90
4月	15	15	15	15	15	15	90
5月	15	15	15	15	15	15	90
6月	15	15	15	15	15	15	90
7月	15	15	15	15	15	15	90
8月	15	15	15	15	15	15	90
9月	15	15	15	15	15	15	90
10月	15	15	15	15	15	15	90
11月	15	15	15	15	15	15	90
12月	15	15	15	15	15	15	90
1月	15	15	15	15	15	15	90
2月	15	15	15	15	15	15	90
3月	15	15	15	15	15	15	90

② 一時保育利用状況

63

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用人数	22	32	37	41	38	41	41	41	27	39	45	15	419

③ 病後児保育利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用人数	1	2	9	0	0	0	0	0	0	6	1	0	19

④ 学童保育利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用人数	367	339	375	436	388	369	426	399	389	421	393	446	4,748

⑤ 病後児利用の疾患

	胃腸炎	溶連菌	風邪	血小板減少	気管支炎	喘息	肺炎	発熱後
0歳児								
1歳児				10	2			
2歳児		1				1		
3歳児								
4歳児			1				1	2
5歳児						1		
合計	0	1	1	10	2	2	1	2

⑥ 延長保育利用状況(各月の1日の平均利用園児数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年平均
早朝	1.1	1.5	1.0	0.8	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	1.1	0.8	1.2	1.0
夕方	0.8	1.2	1.4	0.7	1.0	1.0	0.6	0.8	1.1	0.9	0.8	1.1	1.5

(5) 給食・食育について

① 食育計画について

食育年間計画については、年齢に合わせて平成31年度の年間目標を基に作成し、それに向けた取組みを行った。年間食育計画では、年齢に合わせて出来る事を計画した。

初年度は計画通りに出来なかったもので、今年度は出来る限り計画通りに実行できるように努力した。それでも、未満児の食育を進める事が出来ず課題を残した。年度の終わりに食育計画(案)を担当等に提示し検討させ実施した。次年度は、子ども達の意見を取り入れながら計画・実施を行いたい。

② 実施した食育に関する主な活動

時期	内容
5月	夏野菜の苗植え・草取り・水やり
6月～8月	さつまいもの苗植え・じゃが芋の収穫 夏野菜の草取り・水やり・収穫
9月	体を作る赤、黄、緑のお話・防災の日、非常食を食べる
10月	さつまいものお話(絵本の読み聞かせ)
11月	さつまいも収穫、見学
12月	冬野菜の種蒔き、草取り・水やり
1月	七草のお話、七草に触れる・味噌作り・ラップおにぎり
2月	お箸の持ち方・クッキー作り
3月	じゃが芋苗植え・じゃが芋のお話、リクエスト献立

③ アレルギー対応

食物アレルギーのある子どもへの対応は、保護者からの申請を受けてアレルギーの除去食、代替食の献立表を毎月作成しそれを基に提供した。

年度末に誤飲事故が起きた。それまでの対応を見直し、原因と対策を職員全員で確認して、業務を遂行し、また、保護者にも園の対応状況を報告した。

⑤ 保護者に対して

保護者の食への関心と興味を得るために、毎月「給食だより」に食育の様子を掲載したり、給食に関する情報を保護者に配信したりアンケートに協力を頂きながら、日々の給食の献立のサンプルを玄関ホールに展示している。

(6) 保健衛生について

園児の日々の健康管理や環境衛生、及び感染防止や二次感染防止に努めて以下を実施した。

① 園児の健康管理

・登園してきた朝の子ども達の様子(怪我・発疹・爪・鼻水・咳等)を毎日担任がチェックして健康状態を把握した。その後、看護師が各クラスを回り担任から報告を受け再度視診した。

- ・怪我や発熱の子どもに対しては、怪我の処置を行い発熱の子どもには担任から保護者に連絡し迎えに来るまで医務室のベッドで休養させた。
- ・毎月1回の身体測定と、6月・10月には嘱託医による内科健診・歯科検診を実施した。健康診断結果を保護者に連絡し早期の治療に努めた。
- ・保育園での投薬は原則しないが、溶連菌・中耳炎については、保護者から抗生剤を預かり看護師が投薬した。

② 園内の環境衛生

- ・毎朝看護師が次亜塩素の消毒液を作り各クラス担任はテーブルや壁。床の消毒を行った。
- ・食事前やおやつの前は、必ずアルコールで手指消毒を行った。

③ 感染予防

- ・ミルクや給食提供を行うので、食中毒予防のため月1回全職員の保菌検査を実施した。
- ・感染症発症児は、症状が軽減するまで自宅療養の協力をお願いし、保育室内の消毒を徹底し感染予防に努めた。
- ・サーベイランスを利用により集団発生を早期に探知し、早期対応に努めた。
- ・10月に外部講師を招き、3・4歳児を対象に、手洗い教室を開催した。

④ 集団感染

今年度は感染症の流行はなかった。

2月下旬より新型コロナウイルスが流行りはじめた。職員・子どもに手洗いの徹底、アルコールによる手指の消毒を行った。職員の出勤時・退勤時の検温を実施した。

(7) 行事について

開園2年目となり、職員は行事に対するイメージを共通にし、細やかな計画を立てる事が出来た。どの行事でも、職員・園児・保護者の笑顔が見られ、事故や怪我も無く無事に実施することが出来た。

キッズクラブでは、埼玉の「むさしの村」で、カレー作りや動物とのふれ合いなどを楽しみ、児童の親交を深める有意義な経験となった。特に、夏休みは長期間・長時間の利用であるため、児童が飽きない様にプール活動や手作りおやつ・流しそうめんなどの日々の行事を計画・実施した。

① 実施工事 保育園

月	内容
4	★入園式(参加者40名)
5	こいのぼり集会 ★保育参観(参加者193名)
7	プール開き 七夕集会
8	★夏祭り(参加者224名)
10	★運動会(参加者211名) ハロウィン
11	収穫祭(芋ほり)
12	クリスマス会
2	★発表会(参加者269名) 豆まき
3	ひな祭り

誕生会は毎月実施。★は保護者参加行事

実施工事 学童保育

月	行事名	実施内容	参加人数
4	はじめましての会 バスツアー	自己紹介や施設の使い方確認	20名
		バスの乗り方練習・花見遠足	20名

月	行事名	実施内容	参加人数
8	夏休みのお出かけ	むさしの村・デイキャンプ	23名
	つくばちびっこ博士2019	つくば市国土地理院体験見学	20名

(8) 保護者対応

① クラスだよりの配布・園内掲示

保護者の理解や協力を得るため、毎月1回園の情報や連絡事項について掲載した「園だより」「クラスだより」「保健だより」「給食だより」を配布した。また、緊急の連絡事項については、スクールネットの活用や玄関ホールに掲示コーナーや出入口に掲示した。

② 連絡帳の活用

担任と保護者で連絡帳を利用し、園児に関する情報の共有に努めた。

③ 苦情に対する活用

「苦情申出の窓口」を設置し、保育園における苦情解決責任者、苦情受付担当者及び第三者委員会を設置し苦情解決に努めた。苦情解決委員会会議を2回実施した。

(9月5日、3月12日)

④ 学童保育

学童保育では、保護者の理解や協力を得るため、毎月「キッズクラブだより」を発行してキッズクラブの情報や連絡事項について周知した。また、緊急の連絡事項については、スクールiネットの活用や玄関の掲示コーナーにに掲示した。また、保護者に毎月の利用予定を提出してもらい下校時の送迎を確実にを行うよう努めた。

アンケート調査を行い、要望や改善点を募った。

(9) 事故防止と安全対策

① 園内の安全管理

- ・早番の職員は園内を見回り危険個所の早期発見に努め、発見後は迅速に対応した。特に遊具についてはチェックシートを活用し安全確認を実施した。
- ・プール活動の時期は水の事故を防ぐため管理表を活用し安全点検を強化した。
- ・外部からの不審者の侵入等を未然に防ぐため、門の施錠や防犯カメラでの安全確認を行った。
- ・警備会社によるセキュリティシステムを導入し夜間の安全管理を強化した。

② 園外活動中の安全確認

散歩で園外に出る場合は、散歩用ベストを着用し交通規則を遵守して、交通事故に十分注意した。道路横断の際は横断旗を利用し、特に注意を払った。

③ 災害時の安全確保

定期的(月1回)に様々な災害を想定して避難訓練を実施した。災害時を想定した保護者の引き渡し訓練も行った。

④ 緊急時の対応

緊急時に備え、消防署への通報連絡を行った。

(10) 関係機関・地域との連携交流

① 行政との巡回相談について

- ・つくば市こども部幼児保育課、つくば市保健福祉部及び谷田部保健センター

虐待疑いのある園児、障害を持つ園児、難病を持つ園児とその保護者について、情報共有に努めている。

・土浦児童相談所

1月に児童相談所から、5歳児(母子世帯)に対する言葉の暴力等、虐待の可能性があると連絡が入り、以降本児と母親の見守りを継続中である。

② 地域との交流

- ・夏祭り、運動会に地権者の皆さんを招待して、保育行事を見学して頂いた。
- ・中学生と語る会(つくば学園ロータリークラブ主催・豊里中学校)に出席し、保育士の仕事を説明する。
- ・学区中学生2名の職場見学、学区内高校生2年生2名の職業体験を受け入れた。

2. 職員の状況

(1) 職員配置(令和2年3月31日現在)

職種	園長	主任	クラス担任						栄養士	保育 パート・補助	一時 保育	看護師 正・パート	調理 員	合計
			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳						
人数	1	1	5	4	3	1	1	2	2	3・3	1	1・2	2	32

(2) 各会議の実施

会議名	開催時期
職員会議	月 1 回 (必要があれば臨時で開催)
給食会議・保健会議	月 1 回
クラス会議	随時
以上児会議・未満児会議	随時
運営会議	月 1 回
苦情解決委員会	年 2 回
防火管理委員会	随時

(3) 職員研修

職員の資質向上への取組として、園内研修各種団体の主催する研修会に職員を参加させるべく努めた。研修は計画的に実施できたが、新任研修は不十分であった。

① 内部研修

月日	内容
4月24日	保護者対応について
5月29日	嘔吐時の処置の仕方について
5月30日	視診で子どもの状態を把握する
6月27日	気になる子どもについて
7月16日	救命救急講習 プールの事故を想定して
8月21日	食育 栄養士とともに畑で食育
9月18日	食育 栄養士とともに畑で食育
10月30日	感染症について
11月21日	嘔吐処理について
1月29日	子どもを伸ばす「言葉かけ」保育士の声かけで子どもが変わる
3月14日	人権教育の推進 講師 中村敬治先生

② 外部研修

月日	内容
5月18日	主催 つくばブロック保育協議会 研修名 総会・青島広志氏の音楽トークショー
6月20日	主催 つくば市子育て総合支援センター 研修名 子育て支援者のためのスキルアップ講座
6月21日	主催 つくばブロック保育協議会 研修名 講演 幼保小接続連携 要となる幼児教育施設の在り方
8月2日	主催 茨城県教育委員会 研修名 幼保小接続担当者研修
10月3日	主催 つくば保健所及び常総保健所母子保健福祉研修会 研修名 発達障害の保護者や関りにくさのある保護者への対応
11月1・19日 12月15日	主催 茨城県保育士等キャリアアップ研修 研修名 乳児教育
12月13日	主催 茨城県教育委員会 研修名 幼児教育と小学校教育の連携・接続のための研修会
1月21日	主催 茨城県社会福祉協議会 研修名 保育(中堅)研修会

3. 苦情対応について

保護者からの苦情が2件、日常的に発生する保護者の些細な疑問や要望には、クラス担任が対応した。

申立者	苦情内容	対応状況
保護者	2歳児の保護者から、ならし保育が長く標準保育時間なのに、短時間保育の利用しか出来ず、保育料の差額に不満があるとの申し出が、市役所経由であった。	園長・主任・市役所担当で、保護者と話す、本児は自閉症スペクトラム(7月に診断)で多動保育士の加配が必要であったが、確保が出来ず短時間保育の協力をお願いした経緯を理解して頂いた。6月半ばに加配の態勢が整い、納得する。
	0歳児の保護者から、子どもが熱性痙攣をもっているが、熱が38℃あっても、保育園で少し様子を見てもらえないのか。登園後、預けてすぐに検温して迎えに来るよう連絡があることは、悪意を感じるとの申し出があった。	主任・担任で事務室で対応した。 迎えに来た母親に謝罪をし、今後はすぐに連絡をするのではなく、様子を見てから連絡をするということで納得頂いた。